



【 Tokyo University of the Arts Ceramic Works Exhibition 2016 】

会 期：2016年4月18日(月)～5月6日(金) 9：00～20：00（最終日は16：00まで）

会 場：天王洲セントラルタワー1F・アートホール ※土・日・祝日休館

(<https://www.e-tennoz.com/areaguidance/arthall.html>)



秋山大樹 「米色瓷觸體」

陶芸における価値の再現装置部分

今泉沙彩 「記憶」

赤ちゃんがお腹の中にいるときに感じているあたたかい記憶を、私が見つやさい記憶と重ね合わせて表現しました。

加藤成美 「MASK」

土の表情を探りました。こんな陶芸もあるのねと思っていただければ幸いです。

國藤大幹 「読み聞かせ」

陶土で空間演出を実験的に行う事を目的とした作品。

源野萌美 「刻々」

海で見つけた貝殻が作り出す文様、自然物ならではの複雑な色彩にとっても惹かれて作った作品です。焼き物ならではの思いがけない質や表情が自然物の魅力と重なって見え、その美しさを伝えられたらという想いで作りました。

森悠紀子 「space」

好きな色、好きな形の器たちを自分の好きなように並べる、並び替えるという行為を大切にしました。一つだけだとちょっと弱いけれど、集まることで見えてくる私の空間や私の色を感じてください。

織田雪穂 「街」

この雲の上にはどんなひとが住んで、どんな生活をしているのだろう。現実にはあり得ない理想の世界を表現したくて、そう考えながら空想都市を制作しました。

苅込華香 「花器 海月」

磁土の持つ白さと透明感、質感に惹かれ、その特質を生かして海月をモチーフとした花器を制作しました。

神保 惇 「われ・てん」

めっちゃてん打ちましてん

寺倉京古 「birth -into the-」 「birth -pear-」

思わず触れたいくなるようなかたちや質感を目指しています。

増淵千晴 「春の雨上がり」

春の花々が咲く頃、さっと降ってさっと上がる冷たいしぐれ雨。そのあと小さな生き物達が動きだし、キラキラと花々が輝きだす。冷たくも、雨が降ったあとの景色は美しいと感じ、形にしました。